

川崎市多摩区の道路法面で発見されたアコウゲンバイ

Lepidium draba found on a roadside slope in Tama Ward, Kawasaki City

吉田多美枝

Tamie Yoshida

2008年4月多摩区三田団地在住の白拍子ヒサさんから、近所にアコウゲンバイらしい植物が生えているという電話をもらった。ぜひ案内して欲しいと無理に頼んで、4月6日待ち合わせて生育地に連れて行ってもらった。

三田団地の西端にある駐車場のフェンスの外側に群生していたのは、まさしくアコウゲンバイであった。

アコウゲンバイという聞きなれない名前を初めて耳にする人は多いと思われる。神奈川県植物誌2001の記録では藤沢市辻堂と相模原市上鶴間の記録があるのみで、古い記録に鎌倉市や横須賀市のものがあるが、植物誌2001では見つかっていない。私自身も自生品を眼にするのは初めてであった。

白拍子さんは、生田緑地でかわさき自然調査団が毎月行っている植物観察会のレギュラー参加者である。植物好きで自分でも勉強をしている方なので、アコウゲンバイと目星をつけた的確さにまず敬意を表した。

三田団地は多摩丘陵の一部を削って造られた団地で、周辺には明治大学や浄水場がある。5階建ての鉄筋コンクリートの住宅が44棟建っているが公園や広い庭があるためこの一角ではキンランが咲いたとかコケリンドウを見たなどの報告が時々寄せられる。

この丘の上の駐車場と、下の道路との法面にアコウゲンバイは群生していた。道路と法面の間はコンクリートの擁壁になっていて下からは上れない。やむを得ず2メートル近い駐車場のフェンスを乗り越えてアコウゲンバイを観察した。さらに写真を撮り、標本を採集した。

アコウゲンバイ *Lepidium draba* Lin. (アブラナ科 アコウゲンバイ属) は、地中海沿岸原産の多年草。北アメリカ、オーストラリア、日本に帰化の記録がある。繁殖は種子の他、横に這う地下茎によって広がる。日本では稀な植物であるが、ヨーロッパでは畑の害草とされている。

茎は直立して枝分かれは少なく、上部で分枝し、高さは20~50cm。茎や葉に灰色の軟毛を密生するが、無毛に近い個体もある。葉には不揃いな低い鋸歯があり、縁は波打つ。茎の葉は基部が耳形に張り出して茎を抱くが、下方の葉は基部が細くなりごく短い柄がある。花期は4~6月、頭花は径4mm、花弁は白色で4枚。果実は扁平で、長さ約4mmの逆心臓形をしており、種子は2個あり、熟しても裂けない。

日本での分布は関東以西であるが、帰化の記録がある1951年以来格別の繁殖は見られず、点在する稀な植物とされており、今のところ拡大分布の恐れは無さそうである。種子での分布拡大より地下茎の分断による個体数の増加に注意したい。

三田団地の自生地は上下左右ともコンクリートで囲まれているため、生育地は限定されており、耕作などによる根の分断の心配も無いため、繁殖は難しそうに見える。しかしその後の動向を見守ることは必要である。

青少年科学館標本 多摩区三田 (三)
2008.4.6. 183031・2008.5.18. 183032~
183034

著者紹介

吉田多美枝 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 種子植物班班長



図 川崎市多摩区の道路法面で発見されたアコウゲンバイ